

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	10月	29日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：善徳寺の大日如来坐像				

所在地	吉野郡下市町貝原 6 6 7				
所有者(取材 対応者)名	善徳寺(貝原区長 ***様)(個人 人情報守秘)		連絡先 ***		
			PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など：下市町教育委員会				
市町村 指定文化財	彫刻	1	軀	大日如来坐像 1975(昭和50)年11月1日指定	
	建造物		棟		
文化財指定理由	平安時代後期の秀作であること。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	水の利便が湧き水しかなく、生活にもご苦労されているようだ。本堂内に消火器が設置されていたが、いつの物か分からないという。消防車もとても入って来れそうにはなく、もし火事が起きたらどうしようもないと話されていた。	現状では、火事が起きないことを願うしかない。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	付近にあらゆる動物がやってくるが、今のところお堂に被害は無い。柱などに白アリの穴や虫食いは散見された。	現状維持できることを願う。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	山あいの大変風光明媚な所に建つ寺院で、しだれ桜の咲く頃は桃源郷のような趣があるという。本堂には、江戸時代に京都の本山から移されたという、截金(きりがね)を施された華麗な木造阿弥陀如来立像が安置されている。しかし、もはや完全な限界集落となっており、今のところ何の対策も取られていない。最近、クラブツーリズムの団体ツアーの方々が見学に来られたそうなので、多くの方に知って頂くことにより、お寺と仏像を共に維持出来る希望を見い出せないものかと思う。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

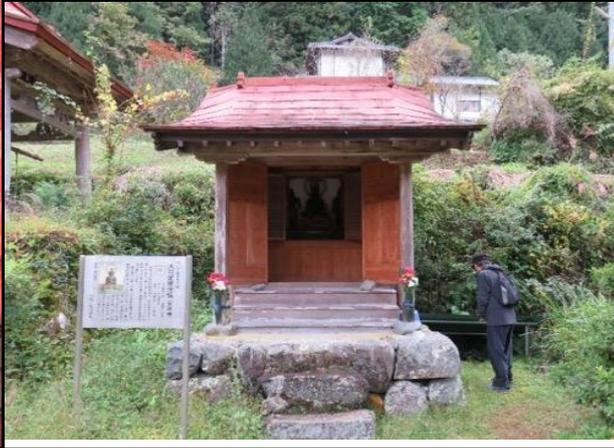
過疎化の波が著しく、貝原地区全ての寺社管理が困難な現状。今は月に一度、出ていかれた元住民の皆さんが戻ってきて善徳寺の掃除をされているそうだが、次世代になるとそれも難しくなるだろう。またお寺の維持管理のための財源が何も無く、今までの資金を崩していくばかりという、前途多難な状況にある。

市町村指定文化財取材票《裏》

取材日	2023年	10月	29日	(記入者) 大谷巳弥子	
取材参加者	秋山	大谷	河添	神野	仲
	灰藤	東辻	本井		
取材対象先	下市町：善徳寺の大日如来坐像				

<写真撮影許可済み>

文化財指定名 大日如来坐像

<p>文化財 (正面写真)</p>	<p>善徳寺大日堂</p>
	
<p>文化財 (安置状態の全体写真)</p>	<p>善徳寺</p>
	
<p>文化財の由緒などを記入</p>	<p>所有社寺や地域 (廃寺等) の歴史や特徴を記入</p>
<p>像高59cmの松材の寄木造りで、藤原後期の作とみられる。智拳印を結び結跏趺坐した金剛界の大日如来。髪を高く束ねて振り分け、根本を縛った紐が左右に垂れ、両耳の真上の位置に左右一箇ずつの菊文を作っているのが珍しいという。均整のとれた美しい像であるが、腕や膝などに傷みがみられる。両脇に、四天王のうちの2軀と思われる木造が置かれているが、大変傷ましい姿である。</p>	<p>善徳寺の創建時期は不明であるが、当初は禅寺であったとのこと。暦応3(1340)年に浄土真宗に改宗され、真宗道場として引き継がれていったが、文亀3(1791)年に堂宇消失。現在の建造物は、明治6(1873)年に建立されたものである。山深い山中で目を引き付ける美しい伽藍で、春にはしだれ桜の隠れ名所となっている。</p>